

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会

VHF/UHF帯電波有効利用作業班

ITSグループ（第1回）議事要旨

1 日時

平成19年3月20日（火）18時30分～20時00分

2 場所

総務省1002会議室（10階）

3 出席者（敬称略）

（構成員）

秋山（トヨタ）、柿原（自工会）、佐藤（情報通信研究機構）、熊谷（富士通）、
関（日本自動車研究所）、浜口（沖：徳田構成員代理）、難波（デンソー）、
山田（新交通管理システム協会）、山本（NEC）

（総務省）

小泉、大野

4 議題

- (1) ITSグループへの課題検討について
- (2) 第1回UHF帯共用検討アドホックグループの結果について
- (3) その他

5 議事要旨

- ① 大野調整官より、前回の委員会において、委員の先生から、ITSもUHF帯で検討すべきの話があり、このアドホックグループで、しっかり検討して、周波数の有効利用をしてほしいとのコメントがあった。

(1) ITSグループへの課題検討について、以下のように議論が行われた。

- ① 柿原構成員より、資料2022-VU作-ITSad-1について説明があった。
- ② 大野調整官より、車両台数1780台に関し、委員の先生方が疑問に思っておられることもあり、限られた周波数ブロックの中で、周波数を有効利用するために、見通しのいい所は、UHF帯を利用するのではなく、事故類型の出会い頭事故防止に絞った検討をしてはどうかとのコメントがあった。
- ③ 柿原委員より、車両台数1780台は、回折も見込んだ根拠のある数字であるとの意見があった。

- ④ 難波委員より、出会い頭事故はわかり易い事例ではあるが、それ以外のシャドウイングによる影響で、UHF 帯が適当な事故類型も含まれていると理解しているとの意見があった。
- ⑤ 秋山代表より、資料 2022-VU 作-ITSad-2, 資料 2022-VU 作-ITSad-3, 資料 2022-VU 作-ITSad-4, 資料 2022-VU 作-ITSad-5 について説明があった。
- ⑥ 大野調整官より、今までの説明では、以前の答申で、携帯電話利用がある中で、UHF 帯を分けてもらう根拠、説得力が足りない。ITS はパッケージだから、他の周波数帯も利用するとの観点で、必要な内容を UHF 帯で利用するとの前提で、検討してほしい。とのコメントがあった。

(2) 第 1 回 UHF 帯共用検討アドホックグループの結果について、秋山代表より、参考資料 2 について説明があり、次回の UHF 帯共用検討アドホックグループ会合に向けての、各構成員の意見を聞いた。

- ① 熊谷構成員より、ITS インフラ協調はベストエフォート型の通信ではなく、リアルタイム性、信頼度が必要であるため、各種方式を考慮した検討が必要で、周波数帯域幅が狭くなった場合の、信頼性確保が心配であるとの意見があった。
- ② 柿原構成員より、1780 台は過剰で現実的でないと思われるようだが、これは事故低減のため交通工学的考え方を基本的にして割り出しているものであり、ベストエフォートのものではなく、全自動車メーカーでの数年に渡る検討結果であるとの意見があった。
- ③ 山田構成員より、事故低減に当たっては、時として車車間通信と路車間通信が別のように理解される場合があるが、今回の提案も車車間と路車間とを共用して使っていく事を我々は提案しており、大野調整官も言われているように、郊外等で、車両台数が少ないエリアでは、路車間通信も実施できる工夫が必要との意見があった。
- ④ 山本構成員より、周波数の有効利用が重要ではあるが、安全・安心の観点、また、IT 新改革戦略には、「世界一安全な道路交通社会へと改革して行くことが求められている。」とあることから、ITS インフラ協調安全システムを提案しているのであって、必要以上に狭い帯域幅になるようなら、それに対応するシステムではなくなってしまう懸念があるとの意見があった。

(3) その他

- ① 秋山代表より、UHF 帯共用検討アドホックグループ会合が、3/22 夕方に開催されることの連絡と出席の依頼があった。